

甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価書

令和 6 年 2 月 9 日（金）

（玉幡中学校）学校関係者評価委員会作成

第 2 回 学校関係者評価委員会

実施日：令和 6 年 1 月 3 0 日（月）午後 4 時～

会 場：玉幡中学校 応接室

参加者：学校関係者評価委員；新海賢一，太田節子，望月 守，大柴岳人

学校側；校長：立川 武，教頭：雨宮 実，教務：三井 久，生指：川上 美幸

I 学校側から提案された内容

- ・学校の全体の様子
- ・自己評価結果の説明
- ・生徒指導に関わる取組状況について

II 協議された主な内容(出された意見等)

- ・教職員による自己評価の集計結果及び生徒・保護者アンケートの集計結果をもとに項目ごと結果分析，考察，改善策を提案し，質問，意見，アドバイスをいただいた。
- ・今日的教育課題，本校における課題について意見をいただき，本校の実態把握及び共通理解のもと，次年度に向けての方策や今後の方向性について意見をいただいた。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・教職員，保護者，生徒アンケートをもとに考察し文章にまとめて提示した。

II 特 徴

- I．学校教育目標に関して・学校経営について
- II．学校運営について
- III．学習指導について
- IV．生徒指導について
- V．地域との連携について
- VI．学校の特色に関して
- VII．創甲斐教育について

以上，七つの項目について達成状況や改善策を示した。これについて以下のような意見が出された。

- ・多忙化解消，働き方改革，部活動の地域移行など多くの課題が山積する中で，生徒，保護者，教師から肯定的な意見が多くあったことは，適切な学校運営であったと評価できる。

特に，今年度は日課時程表を見直し，部活動等の活動時間を確保するとともに，下校時間を 30 分早める工夫をしたことにより，時間的な「ゆとり」が精神的な「ゆと

り」につながっていると感じられる。

- ・やりとり帳や i-check の分析などを通して、生徒と教師のよりよい信頼関係が築けており、内容について先生方の温かいコメントが多く頭が下がる。
- ・学校生活が楽しいという意見が多くあったことは、良い傾向である。
- ・ICT活用は、昨年より大幅に改善され、特に授業への活用が進んだ。
- ・PTA 健全育成講演会は、講演内容が良かった。多くのことを学べる貴重な機会であった。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ①多忙化解消、働き方改革、部活動の地域移行など取り組むべき課題は山積しているが、一つ一つのことに誠実に対応している。これからも継続して欲しい。
- ②教職員の研修の機会を確保し、一人一台端末の活用をさらに推進し、学習道具として扱えるように継続して取り組んで欲しい。
- ③生徒のクロームブックへの関心も高く、教師の授業への利活用は改善傾向にある。さらに学力向上につながるような授業の取り組みができるようになってほしい。
- ④おおむね学校生活は落ち着いていて、良い環境であると感じる。一人ひとりの生徒を大切にする教育活動を実践し、今後も臨機応変に柔軟な対応で学校生活を維持してほしい。そのために ICT の活用は今後ますます必須となり、教職員の負担が増すこととなるので、補助教員など専門性の知識を持つ人材の必要性を感じる。
- ⑤2 学期の学園祭の取り組みについて、保護者の方々からは好意的な意見や話を聞くことができた。学校の取り組みの成果だと思う。
- ⑥コロナ禍を経て、課題を改善しつつ、通常のエデュケーション活動の推進に、教職員の苦勞の程がうかがえる。まずは教職員の方々の体を大切にしてほしい。

※特記事項

- ・今年度は、研究指定ではなくなったが、昨年度からの継続で教育活動の基盤となる学級づくり・集団づくりに取り組んできた。
- ・今年度も、玉幡中学校区における小中連携教育を継続して推進している。1 学期には教育実践家である菊池省三先生を招聘し、小中学校 9 カ年間を見通した学習や生徒指導のあり方について、授業提案や講話を通して、玉幡中学校区の小中学校の教職員が多くのことを学ぶことができた。また、中学校の教員が竜王西小と玉幡小に出向き、数学と英語の授業を 6 年生対象に行った。また、本校生徒会の生徒が 2 つの小学校に出向き、中学校生活の説明を行ったり、Q & A タイムを通して交流したりして、4 月から始まる中学校生活に夢や希望を持ってもらえるように努めた。